

気をつけて！ 子供の夏の事故

夏本番をむかえ、水遊びやお出かけなど、さまざまなイベントを計画されている家庭も多いことと思います。ワクワクする気持ちが高まる一方で、心配されるのが子供の事故。そこで、夏に多く発生する事故を取り上げ、防止のためのポイントを紹介します。

家庭での水遊びに注意！

0～5歳の子供の「溺れ」事故の多くは家庭の中で起きています。ビニールプールや浴室で水遊びをするときに、「少しくらい1人にしても大丈夫だろう」、「兄弟がそばにいるから目を離しても大丈夫だろう」と思ったことはありませんか。大人がちょっと目を離した隙に、悲しい事故は起きています。

★事故を防ぐポイント★

- ・子供は、深さ数cmの水でも溺れてしまいます。水遊びをするときに、大人はその場を離れてはいけません。
- ・浴槽に水を溜め置いている場合は、浴室に施錠するなど、子供が水に近寄れない対策が必要です。

※ 浴室ではこんな事故も起きています。「お風呂で『首輪型の浮き輪』をさせて目を離してしまったら、呼吸停止。救急搬送！」<http://www.shouhiseikatu.metro.tokyo.jp/attention/ukiwa.html>

夏場の車中に注意！

炎天下のときに、自動車内は60度を超え、シートベルトの金属部分が最高で66度まで上がったとの調査結果がでています。体温調節機能が未熟な乳幼児は、短時間で重度の熱中症になりやすく、死に至るケースもでています。

★事故を防ぐポイント★

- ・短時間でも、車内に子供ひとりを残して離れることは、絶対にやめましょう。
- ・子供を車のシートに座らせるときは、金具など高温部でのやけどに注意しましょう。

花火でのやけど・火事に注意！

花火では、手足や顔をやけどする事故のほか、目に当たり失明しそうな事故もあります。また、火が枯れ草に燃え移ったり、遊び終わった花火の火種が残っていたことで火事が起きています。

★事故を防ぐポイント★

- ・花火には、ローソクから火をつけましょう。マッチやライターから直接つけると、やけどの危険が高まります。
- ・途中で火が消えても、絶対に花火をのぞき込んではいけません。
- ・バケツなどに消火用の水を用意しておきましょう。